

古典 劇 めんどくさいのでざつと
花山出家ふおおおお

花山天皇：じゅんた 晴明：はるき 粟田さん：はせし
式神：ぱあ

流れ 正直適当でいい

ナ：次の天皇は花山院の天皇と申し上げました 冷泉院第一の皇子であり母は贈皇后宮懷子
永觀2年8月17歳の頃くらいにつきその2年後寛和2年6月の夜に意外に驚きましたことは
誰にもお知らせにならないで密かに花山寺においてになってご出家なさったことです。
そんな夜のお話

花：「月めっちゃ明るいやないかい。あまりに目立って気が引けるなあ みんなにバレたくないのになあ どうしたらええんや」

粟：「そうかといって思いどまりなさる理由ありまへんで神璽・宝剣はもう新しい天皇の
とこわたってもうたんですから」

花：少し暗くなったのを感じ取って

「私の出家は成就するんやなあ」と歩き出そうとするところで
「あ、私愛した女御からの手紙ずっと持てたやつ持てこないと」取りに行こうとして

粟：「どうしてこのように未練がましくお思いになってしまふんですか 今過ぎたら自然と
支障も出てまいるでしょうに」 ウソ泣き大号泣かます

粟：花山引っ張って晴明の前通る

晴：手をパチパチしながら
「花山天皇がご退位なさると思われる空の変異があったけど既に済んでしまったと思わ
れるなあ 参内して奏上しよう 車に支度をはやくしろ」

「とりあえず式神宮中へ参上せよ」

式：「今丁度ここをお過ぎになっているようです」

花山寺に着く

花：髪を剃る

粟：「退出し父に出家前の姿をもう一度見せ事情を申して必ず戻って参りましょう」

花：全力をあげて

「わたしをだましたなああああああ」 泣く

ナ：粟の父は寺で粟田が無理やり出家させられるのではと源氏の武者を派遣してお守りになっていました。